

iCraft レースレポート

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第5戦

「SUZUKA S 耐」

9月18日～19日 鈴鹿サーキット（三重県）

予選：晴れ／ドライ 入場者数：1,700人

決勝：晴れ／ドライ 入場者数：4,600人

TRES☆TiR☆NATS ロードスター（マツダロードスター ND5RC）

金井亮忠／山野哲也／猪爪杏奈

一時は夢見た初優勝。最後に涙を飲んで4位となるも、多くの財産を得る！

2シーズン目のスーパー耐久シリーズに挑む iCraft（猪爪俊之：監督）は、激戦区として知られる ST-5 クラスに、マツダロードスター「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」で参戦。日本自動車大学校（NATS）の支援を受け、学生たちがマシンを製作し、メカニックを担当する。オートポリスで行われた第4戦では、一時トップを走行。昨年、表彰台に上がった相性のいいコースで2年連続の期待がかかるも、タイヤ選択の妙もあって、あと一步届かず4位となった。

いよいよシリーズも残すところ、あと2戦。鈴鹿サーキットが舞台の第5戦、5時間レースにおける、最大の話題は山野哲也を助っ人として起用したことだ。JGTC/スーパーGTで3度のチャンピオン経験を持ち、全日本ジムカーナ選手権ではV21を達成したばかりのスーパースターの、かつてライバルでもあった猪爪俊之監督による、強い要請によって実現した。

鈴鹿といえば、世界的にも屈指のテクニカルコースであり、ドライバーのみならずチームの能力が問われることでも知られている。そこで山野の経験や知識が伝授されることによって、あらゆる意味でのスキルアップが期待されるとともに、もちろん優勝を目標として戦っていく。

今回は3人体制で臨み、金井亮忠をAドライバー、山野をBドライバー、そして猪爪杏奈をCドライバーとして起用する。



公式予選

昨年はコロナ禍で中止となったため、鈴鹿でのスーパー耐久は2年ぶりの開催となり、参戦2年目の iCraft としては、初めて臨む舞台でもあった。その一方でドライバーの経験は豊富。金井と山野は言うまでもなく、猪爪も VITA で1週間前にレースを経たばかり。その意味では、ドライバーの習熟に関しては、一切不要でもあった。

練習走行は木曜日から開始されたが、山野はすんなり溶け込めたという。車両に対する印象も良く、特に高い剛性感に感銘を受けていた。余談ながら金井は、かつて山野がクスコインプレッサをGTで走らせていた時のサポートメンバーで、しかも免許取り立ての頃、山野が主催するドライビングレッスンを受講していたことが初めて発覚！

ただ、今回の懸案要素は、なんと言っても近づいていた台風による影響だ。木曜日の練習走行、金曜日午前の専有走行まではドライコンディションは保たれていたが、午後の専有走行は強い雨に見舞われてしまう。そのため、金曜日のうちにあらかじめスケジュール変更が発表され、土曜日午前のフリー走行の中止、午後の予選も1時間遅らされることになった。併せてBドライバー予選がAドライバー予選の前に行われることとなったが、これは上位クラスのAドライバーの多くが、ジェントルマンドライバーであることに対する配慮でもある。

ちなみに専有走行において、ドライ・ウェットともに「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」は2番手タイムを記しており、これは予選、決勝レースに向けて何よりの好材料といえよう。ドライで山野がマークした2分33秒654は、予選のターゲットタイムにもなっていた。

さて、肝心の土曜日だが、夜半のうちに台風は通過しており、朝にはもう雨はやんでいた。何はともあれ、大事に至らず良かったと思うべき。そして予選が行われる頃には、もう路面はほとんど乾いていて、一部にウェットパッチを残すだけとなっていた。

先に行われたBドライバー予選に臨んだ山野は、しっかりクリアラップを取るべく、すぐにはコースインせず。結果、しっかり位置取りしていたのは「さすが」の一言。計測2周目には、ターゲットタイムをはるかに超える、2分32秒229をマークする。しかし、その後の走行ではタイムアップならず、しっかりクールダウンして再度アタックするも、タイムは伸びていかなかった。実はこれには理由があって、ミッションが不調を来していたのである。それでも2番手につけて、金井にバトンを託す。

短いインターバルであるにも関わらず、メカニックたちはしっかり対策を施して、金井にマシンを委ねたことによって、周回を重ねるごとタイムを詰めていく。最終ラップのアタックにおいて、2分31秒936にまで短縮。金井もまた2番手につけて、合算タイムでも「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」は2番手につけることとなった。

この後に行われたCドライバー予選では、猪爪がセッティングも兼ねて走行し、2分36秒475を記録して5番手となっていた。

金井亮忠

フリー走行ではユーズドタイヤで走っていたので、予選で初めて新品タイヤを履いたのですが、鈴鹿サーキットをロードスターで走ると、『こんなに楽しいのか』って（笑）。いつも乗っているF4よりも全開率が高くて、特にS字はもの凄く楽しかったです。クルマの動きもすごく良く、僕も山野さんと同じようなタイムで走れたので、決勝でも安定した走りができれば良い結果が待っていると思っています。

山野哲也

今週末の中で、クルマが一番良く走っているの、そういう意味では良かったかな。ただ、予選ではミッションが入らなくて、すべての周でロスしてしまったので、自分の中では悔いも残りますね。かといってポールが獲れたかという、ちょっと難しかったかも。トップのクルマは速かったから、そこには追いつかない感じでした。でも、2番手にいて決勝は長いから、戦略を含め、いかにトラブルなくチェッカー受けることができるかがポイントになるので、そこには自信があるって感じですね。

決勝レース

今回の決勝レースも全クラス混走で、5時間で競われる。日曜日の鈴鹿は、まさに台風一過の好天に恵まれ、上空には鮮やかな青空が広がっていた。午前には20分間のフリー走行が実施され、ここで山野が唯一2分36秒を切る、2分35秒692をマークしてトップに立つ。まわりがどういう状態なのか分からないものの、今回の「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」は勝ちに来ていと認識させたに違いない！

その山野がスタートを担当。2周目に2台に抜かれ、4番手に退くも、それは長丁場ゆえ無理は禁物との判断による。実際、後続は徐々に引き離しつつ、前を行く3台には食らいついていく。そして、隙あらば！ 9周目のS字で3番手に浮上する。そのままポジションキープで周回を重ね、ほぼ1時間半経過した32周目に、猪爪と交代する。やはり3番手につけたまま46周目には、金井にスイッチ。2回目のピットストップは59周目で、金井はWステイントに打って出てロスを最小限としたこともあり、やがて2番手に浮上。

さらに、ピットタイミングの違いもあって、76周目に金井は待望のトップに躍り出る。その直後の78周目に、山野が再び乗り込むことに。残すは、ほぼ1時間半。間もなく2番手に返り咲いた山野は、83周目の1コーナーでトップに並んで、S字でオーバーテイク！ そして山野もまた、残り1時間を切った92周目からWステイントを敢行する。99周目にはトップに再浮上し、しかもその時点でのリードは10秒以上に及んでいた。

そのままゴールできれば初優勝、しかも優勝となるのは間違いなし。だが、その一方で最後までガソリンは保つのかという思いも……。そんな不安は的中してしまう。ゴールまで15分となった107周目に、予定外の給油を行うことに。

その間に4番手まで後退するも、最後まで諦めず走り続け、3番手の車両に3秒差にまで詰め寄せた山野ではあったが、無情にもチェッカーが振り下ろされてしまう。あと一步のところまで初優勝が、そして鈴鹿で表彰台の夢も潰れてしまうも、大いに収穫を得た一戦でもあった。

残るは最終戦だけとなり、11月13～14日に岡山国際サーキットが、その舞台となる。今季ラストレースを集大成とできるか、是非とも注目していただきたい。



金井亮忠

レースって、難しいですね……。今回は山野選手のおかげでスピードが手に入ったのですが、その分ちょっと燃料を使ってしまいましたね。前回は自力でトップを走れる状況になってきているので、そういう意味では確実にポテンシャルは上がっていると思います。耐久はそんなに甘くないですけど、戦える位置には来ているので、また細かいところを詰めて最終戦に臨めたらと思います。最後は優勝で終われるようにまた頑張ります。

山野哲也

面白いレースだったね。表彰台には上がれなかったけど、後半でトップを走ることができたし、いいバトルもできたし、そういう意味ではやりがいのあるレースでした。監督が本当に透察力と想像力のある人なので、すごくチームをまとめてくれるというか、すべてお見通しの中でやっている。そういう意味では、今週末できることは精いっぱいできました。また、スーパー耐久に出たくなりましたよ。

猪爪杏奈

レース時間残り 15 分まででトップだったのに、こんなドラマがあるなんて本当に悔しいです。しかし山野選手にスポット加入頂いたことでチーム内では様々な化学変化が起こり、今後に繋がる貴重なデータや財産が残りました。私にとっても刺激的な 4 日間で、成長に繋がる時間を過ごすことができました。これをチームの真価に変えて、次に繋げる事が 1 番大事だと思っています。失敗を経験に、経験を勝利に繋げる地道な努力を怠らなければ、このチームで勝てる日が必ず来ると信じています。次も諦めません。

猪爪俊之監督

私のせいです、負けたのは。燃費が悪くなるのを承知でドライバーに無理させていましたからね。ラスト 15 分で僅かに燃料が足りなくなり無念の PIT インでした。でも、チームにとって山野選手のスポット加入も有り、初めての鈴鹿走行にも関わらず良い経験となりました。勝つためにやることは解かったので諦めません、諦めの悪さには自信あるので次戦の岡山に全力で臨みたいと思います。